

(4) 研修医（専攻医）の週間スケジュール

週間スケジュール表

	8時45分～ 午前	午後 ～17時15分	
月	8:45-9:05 医局モーニング MT 9:15～10:30 専門領域ミニレクチャー	13:00～14:00 画像診断 CC (月1回) 15:00～16:00 東病棟 CC 《各病棟診療》	
火	8:45-9:05 医局モーニング MT 9:15～12:00 外来予診/外来陪診	13:30～15:00 院内感染対策/医療安全委員会 13:30～15:30 ARP エンパワメント MT 16:30～17:15 外来・精神科デイケア Conf (隔月) 《各病棟診療》	
水	8:45-9:05 医局モーニング MT 9:15～12:00 再診外来	13:30～ 南病棟 Conf 14:30～ 西1病棟 Conf 15:30～ 西2病棟 Conf 16:00～ 西3病棟 Conf (隔週) 《各病棟診療》	17:30～19:00 医局学習懇談会 (月1回: 第3水曜)
木	8:45-9:05 医局モーニング MT 10:00～12:00 ARP 学習・交流 MT	12:45～13:15 薬剤情報説明会・WEB講演会 13:30～ 14:00 北病棟 Conf (隔週) 12:30～13:30 思春期 Conf 《各病棟診療》	
金	8:45-9:05 医局モーニング MT 9:15～12:00 思春期専門外来 陪診	13:30～14:30 精神科訪問診療・訪問看護 《各病棟診療》 15:30～16:30 接遇推進委員会 (月1回) 16:30～17:15 症例検討・研修振り返り	19:00～ 20:30 (月1回)地域精神科セミナー

【 CC : 新入院患者等症例検討会、Conf:病棟チームカンファレンス、 Mt : 各種ミーティング、 ARP : アルコール依存症リハビリテーション・プログラム 】

【東:精神科救急入院病棟, 西1:認知症疾患治療病棟, 北・西2・西3:精神療養病棟, 南病棟:一般科病棟】

※就業時間が39.5時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。  
原則として、39.5時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

(5) 研修医（専攻医）の年間スケジュール

月	年間スケジュール表
4	オリエンテーション / 各診療チーム紹介およびカンファレンス参加 (思春期、老年精神、依存症、うつ病・気分障害、精神科救急、司法精神医学) // 個人および集団精神療法 / 臨床精神神経薬理学 / 認知行動療法 / 臨床心理および神経心理検査 / 画像診断(核医学検査、MRIを中心に)・脳機能画像(NIRS) / 神経生理学検査(脳波等) / 精神科リハビリテーション(NEARを含む) / ソーシャルワーク・院内および地域医療連携・福祉連携 以上についてのセミナーおよび診療参加

5	(上記の後半が続く)
6	日本精神神経学会学術総会 / 日本老年精神医学会総会
7	山陰精神神経学会 / 「かかりつけ医」うつ病対応力向上研修会
8	日本うつ病学会 / 鳥取アディクション研究会「医療セミナー」
9	日本神経精神医学会 / 日本生物学的精神医学会
10	県医師会地域医療連携研修会（「心の医療フォーラム」）
11	鳥取県認知症疾患医療センター「医療セミナー」/日本精神科医学会学術大会 /中国四国精神神経学会
12	日本認知症学会総会 / 山陰精神神経懇話会
1	院内学会（多職種研究発表会）
2	鳥取県認知症疾患医療センター「症例検討会」
3	日本不安症学会学術総会

## (6) 院内・院外研修

### 1) 院内研修

**病棟症例検討会**（精神科救急入院病棟：週1回、新入院症例を中心に行っている。他の病棟においても、週1回または隔週でケースカンファレンスを行っている。）

**医局学習懇談会**（毎月第3水曜日に医局メンバーを主体に、院内多職種ならびに地域保健所保健師、行政職も招いて、精神科における臨床課題、地域精神保健・医療におけるトピックス等を3題程度プレゼンテーションの後、総合討論を行っている。）

**個人スーパービジョン**（精神科面接、精神療法等の技法について、定期的実施する。）

### 2) 院外研修

日本精神神経学会学術総会など、主要な精神科領域学会（地方会を含む）や各種の講習会へ積極的に参加することを推奨している。

## B 研修連携施設

### ① 施設名：鳥取大学医学部附属病院精神科

- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：原田 省
- ・指導責任者氏名：岩田正明
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	9 5	1 0
F1	9 0	7
F2	2 0 7	3 1
F3	4 4 6	5 0
F4 F50	4 0 3	2
F4 F7 F8 F9 F50	2 0 1	2 5
F6	5	0
その他	7 6 3	4 6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

1) 精神疾患全般にわたる経験

研修の早い段階で様々な疾患・病態を広く経験することは、精神科医としての自立を促してくれます。また、こうした得た知識や経験は、後に専門領域を深める際にもとても大切です。例を挙げると、難しい抑うつ状態の診療において、気分障害以外の統合失調症、発達障害、パーソナリティ障害、症状精神病、認知症を含む器質性精神障害で生じる抑うつ状態の経験は、今や診断・治療に不可欠です。鳥取大学医学部附属病院とその関連病院では多様な精神疾患や障害の臨床経験が可能です。また、鳥取大学は鳥取県西部地区の精神科救急輪番に参加し、地域医療にも貢献しています。

2) 生物学的な観点と心理社会的な観点のバランスの育成

2つの理念・方法論は、対立するものではなく互いに補完し合う性質のものであります。両者の特性をよく理解した上で、「その時最も求められること」をプランし、実践する能力の育成を重視します。例えば、詳細な病歴聴取、現症の把握、光トポグラフィー検査を組み合わせることによって、抑うつ状態の鑑別診断や治療法の選択の精度向上を図ることができます。

3) 脳とこころの医療センターへの参加

脳神経内科、脳神経小児科、脳神経外科の神経系を対象とする3科と当科で協力し、頭痛、てんかん、発達障害、高次脳機能障害等、互いに重なる領域の診療・研究を協働して行っています。

4) 臨床心理学専攻との交流

鳥取大学大学院臨床心理学専攻は全国で唯一、医学部内に設置された臨床心理学の修士課程です。この特性を活かし、当科では精神療法、認知行動療法、認知リハビリテーションなどの様々な技法について、それぞれ専門の臨床心理士から指導を受けています。また、医学的な治療と心理社会的な治療を協働しながら行うことも日々実践しています。特に、統合失調症の維持期に行う認知リハビリテーション NEAR (Neuropsychological and Educational Approach to Cognitive Remediation)は全国的にも注目を集めています。

5) 研究グループへの参加

精神医学と精神医療は、着実に進歩を遂げている脳科学や心理学から大きな影響を受けています。当教室では、統合失調症の認知リハビリテーション(神経認知機能及び社会認知機能)、統合失調症や気分障害の神経画像研究(NIRS、fMRI)、気分障害のメカニズムに関する臨床研究(耐糖能や視床下部-下垂体-副腎皮質系機能と抑うつ状態の関係)、うつ病の病態に関する基礎研究(病態生理に対するグリア細胞の関与に関するメカニズム)が活動しています。希望者は、興味をもった研究グループに参加し、最新の理論・方法論に触れたり、直接、研究に従事することができます。

#### 6)短期研修

下記施設にて数日～週間程度の研修を組み込んでいく予定です。

- ・鳥取大学内：鳥取大学臨床心理センター、緩和ケアチームへの参加
- ・地域精神医療との連携：保健所、裁判所、隠岐病院 など

週間予定					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	8:30 チームカンファレンス 10:30 教授回診	抄読会 外来業務 予診 本診陪診 病棟業務	外来業務 予診 本診陪診 病棟業務	外来業務 予診 本診陪診 病棟業務	外来業務 予診 本診陪診 病棟業務
午後	教授回診～16:30 抄読会 ケースカンファレンス (1回/2月) 医局会	外来カンファレンス 外来業務 病棟業務 リエゾン	外来業務 病棟業務 リエゾン 認知矯正療法(14:00～)	外来業務 病棟業務 リエゾン	外来業務 病棟業務 リエゾン 認知矯正療法(14:00～)
17時以降		緩和ケアチーム		MRI研究会 16:30～基礎研究グループ 勉強会 気分障害勉強会	緩和ケアチーム

医局行事予定表	
月	イベント内容
4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出 山陰精神科心療内科研究会 脳とこころの医療センター臨床検討会 指導医によるクルズス(4月から6月)
5月	中枢神経懇話会 サイコグリア研究会(任意)
6月	日本精神神経学会総会(任意) 脳とこころの医療センター臨床検討会
7月	山陰精神神経学会 6大学研修医研修会 山陰難治性精神神経疾患治療研究会 中枢神経懇話会 日本うつ病学会(任意) 日本神経科学会(任意)
8月	脳とこころの医療センター臨床検討会
9月	中枢神経懇話会 躁うつ病懇話会(任意) 日本生物学的精神医学会(任意)
10月	Neuroscience Meeting(任意) 脳とこころの医療センター臨床検討会 中国四国精神神経学会(任意) 1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出
11月	臨床精神薬理学会(任意) 山陰難治性精神神経疾患治療研究会 中枢神経懇話会
12月	山陰精神科臨床懇話会 脳とこころの医療センター臨床検討会 研修プログラム管理委員会実施
1月	中枢神経懇話会
2月	鳥取島根精神科医師の会 脳とこころの医療センター臨床検討会
3月	日本統合失調症学会(任意) 中枢神経懇話会 1・2・3年目専攻医研修報告書作成 研修プログラム評価報告書作成

② 施設名：独立行政法人国立病院機構 鳥取医療センター

- ・施設形態：精神疾患を中心とした総合病院
- ・院長名：高橋浩士
- ・指導責任者氏名：坂本 泉
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 213 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	41	5
F1	102	11
F2	759	68

F3	753	50
F4 F50	470	49
F4 F7 F8 F9 F50	7	1
F6	11	2
その他		

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

鳥取医療センター精神科は159床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、精神科医師の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し光トポグラフィーを含む生物学的検査・心理検査を行い、クロザリルを含む薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。さらに当院は山陰に唯一の医療観察法指定入院医療機関であり、

山陰で医療観察法入院治療を研修できるのは当院だけである。

また、当院小児科や神経内科と連携して、児童思春期精神疾患や認知症について研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

精神医療を通して鳥取県民の健康に尽力することが当科の使命である。

週間予定表

	月	火	水	木	金
8:30-8:50	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
8:50-12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:30-14:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14:00-15:00	病棟業務	脳波検討会	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	画像読影会
16:00-17:15	病棟業務	病棟業務	病棟業務	症例カンファ	病棟業務

年間予定表

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加
7月	山陰精神神経学会参加 国立病院機構レジデントフォーラム参加
8月	

9月	
10月	
11月	
12月	中国四国精神神経学会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

③ 施設名：鳥取生協病院

- ・施設形態： 民間病院
- ・院長名：皆木眞一
- ・指導責任者氏名：田治米 佳世
- ・指導医人数：( 1 ) 人
- ・精神科病床数：( 0 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	199	0
F1	24	0
F2	126	0
F3	234	0
F4 F50	197	0
F4 F7 F8 F9 F50 (児童思春期)	12	0
F6	* (6)	0
その他	0	0

F 6 主病  
名は 0 例  
\*は F3,  
F4 に合  
併してい  
た数

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当科は中国地方では数少ない総合病院精神医学会専門研修施設となっている。リエゾン精神医学を専門とする指導医と、認知行動療法に長けた心理士集団を中心に、多職種チームで院内外の多様な資源と連携(リエゾン)し、包括的な精

神経科医療（保健・福祉）に取り組んでいるのが当科の特徴である。

### 1) リエゾン精神医学と地域連携

病棟からの心療科へのリエゾン依頼は年間 200 例を超える。院内には、HCU、急性期病棟、回復期リハビリ病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟があり、様々な病態と病期の他科入院患者の精神科的問題を経験できる。

社会的弱者支援を旨とする医療生協の一般病院として、外来部門でも、心身に多数の問題を抱えた生活困窮者、身体合併症や慢性疾患を抱える精神障害者の通院が多いが、立地や活発な連携医療を背景に、勤労者や学生の神経症圏、感情障害圏の患者も多い。

多様な患者のニーズに応えるため、当科独自に、リワーク支援を目的とした精神科ショートケアや、重症困難事例への精神科訪問看護を行っている。

入院が必要な事例については、有床の精神科医療機関に依頼し、退院後の地域支援を見据えた支援を、時には入院先に出向いて行う。障害者職業センターはじめとする各種就労支援機関、福祉事務所や児童相談所などの行政機関、教育機関、司法関係の機関、院外の訪問看護ステーションなどとも、日頃から顔の見える関係を築き、連携している。

### 2) 認知行動療法

当院には、認知行動療法を主な手法として活動する臨床心理士が、常勤 3 名、非常勤 1 名と手厚く配置されている。うち 2 名の心理士は、専門行動療法士と医学博士の資格を持ち、大学でも教えている指導者であり、精力的に臨床・研究・教育にあたっている。

精神科ショートケアでは集団を対象に SST や認知行動療法を行っている。

週に一回は医師・心理士合同の会議があり、心理療法に焦点をあてた症例検討が行われている。院外の心理士も参加する CBT 勉強会が定期的に開催されており、毎年県外から心理大学院生の実習を受け入れるなど、認知行動療法の習得には恵まれた環境となっている。

### 3) チーム医療

臨床心理士と連携して行っている活動として、狭義の医療活動だけでなく、職員のメンタルヘルスや地域の医療生協組合員にむけたメンタルヘルスプロモーションがある。

病棟のリエゾン活動では、精神保健福祉士（PSW）や心理士が「ご用聞き」に回るスタイルが確立しており、医師単独での回診よりも多くの事例に多面的なサービスが提供できている。PSW は外来でもケースマネジメントや精神科訪問看護で活躍している。

看護師は兼任であるが、外来のスムーズな運営と、通院患者の合併症への気配り、地域連携の窓口として欠くことのできない存在である。

週 1 回水曜日の運営会議には関連職種が全員集まり、その週の「気になる症



例」全てについて多職種での症例検討を行う。話し合いを通じて精神科医として治療方針を明確にし、チームの力を最大限引き出すためのコミュニケーションが身につけられる。

年2回は院内大会議室で院外講師を招いた「心療科学習会」を開催し、精神科分野の最新情報の学習や他科スタッフの啓発に努めている。

年に1回の「心療科社会科見学」では、地域の社会資源を見学し、見聞を広め連携のあり方を探る。同じく年1回の「心療科合宿」では、一泊二日をかけて、まとまった学習や議論を行い、技能の向上とチームワークを強化している。

学会参加や論文投稿は病院全体として奨励されており、費用面の支援も受けられる。

・ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
08:00-08:30		抄読会			ミニカンファ	
08:30-12:30	外来 初診問診	ショート ケア	外来 再診陪席	外来	医師・心 理士ミー ティング	フリー
					認知行動 療法	
13:30-15:00	院外研修	リエゾン 同行	リエゾン	リエゾン 緩和ケア	外来 (認知症)	
15:00-17:00		フリー	運営会議 多職種カ ンファ	回診 16:00- 総合診療 症例検討		
17:00-		医局会/ 研修医会 (各月1)	19:30- 英会話 (任意)			

・ 年間スケジュール

	院内	院外
1月		
2月	鳥取民医連学術運動交流集会	
3月	年度のまとめ	中国地区 GHP 研究会 *GHP=総合病院精神医学
4月	新入職員オリエンテーション	
5月		
6月	心療科社会科見学	日本精神神経学会総会

7月	心療科学習会	山陰精神神経学会
8月		
9月	心療科合宿	
10月	半期のまとめ	日本認知・行動療法学会
11月		日本総合病院精神医学会総会 中四国精神神経学会
12月	心療科学習会	山陰精神科臨床懇話会

#### ④ 施設名：医療福祉センター倉吉病院

- ・施設形態：社会医療法人
- ・院長名：兼子幸一
- ・指導責任者氏名：前田 和久
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 278 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	385	187
F1	30	37
F2	66	242
F3	207	111
F4 F50	408	55
F4 F7 F8 F9 F50	／	／
F6	11	7
その他	37	10

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

##### ○当院の特色・理念

医療福祉センター倉吉病院は、鳥取県中部の倉吉市に位置し、この地区唯一の精神病床を有する単科精神科病院であり、同一法人には中部障がい者地域生活支援センター、宿泊型自立訓練事業所あずさ、グループホームハピネスをはじめとする障害者在宅支援関連施設に加え、藤井政雄記念病

院（内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・リハビリテーション科・心療内科・外科・皮膚科・緩和ケア内科・婦人科）、藤井政雄記念病院附属歯科クリニック（歯科、歯科口腔外科）、米子東病院（整形外科、内科）、ル・サンテリオン北条、ル・サンテリオン鹿野、ル・サンテリオンよどえ（老人保健施設）、ガーデンハウスよどえ、ガーデンハウスはまむら（サービス付き高齢者向け住宅）、よどえババール園、大和保育園（保育所）、法人事業部（給食、売店）を有している。これら関連施設との緊密な連携により、身体的な問題や介護的な問題についても対応可能となり、入院から外来まで、精神障害者が求める幅広いニーズに対応している。

統合失調症や気分障害、神経症性障害をはじめとして、地域の実情に合わせ精神科救急医療、認知症診療に特に力をいれ地域のニーズにこたえられる病院を目指してスタッフ全体で精神科医療に取り組んでいる。

○医師養成の目標

精神科においては、従来から医師－患者関係が治療に重要な意味を持つといわれているが、これは何も精神科に限定されるものではない。医療に従事するものとして、患者・家族との良好な関係に基づき、誠意を持って診療に当たり、最善の医療を提供することのできる医師を養成することが当院の役割であると認識している。

これを達成するために、精神科専門知識・技能の獲得は言うまでもなく、患者家族の苦悩を理解し、その緩和を援助しようという態度を身につける努力を続ける指導を行っている。また、その時その場での自らの心身の状態を適切に把握し、ストレスに対しても適切に処理する能力を身につけることも重要と考えている。

○精神科の専門性について

精神科を取り巻く社会状況は近年激変している。単科精神科病院，総合病院精神科，精神科診療所は言うまでもなく、老人保健施設などの福祉施設、デイケア、作業所、社会復帰施設、保健所、精神保健センター、児童相談所、学校現場（生徒、教師）、企業（産業保健）、行政と連携したうつ病対策、認知症予防、医療観察法などの司法精神医学など専門性を必要とする場面はますます増加している。当院では、これらの業務に携わる指導医のもと、こういったニーズに答えることのできる知識や技量を持った医師の養成を行っている。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30～9:00		モーニング カンファレンス			
9:00～12:00	外来予診	外来予診	デイケア	外来予診	外来予診
13:00～16:00	医局会 カンファレンス	病棟業務	デイケア	病棟業務	病棟業務
16:00～17:30	病棟業務	病棟業務	論文輪読会	レクチャー	病棟業務

--	--	--	--	--	--

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会 日本老年精神医学会(任意)
7月	山陰精神神経学会参加・演題発表
8月	日本うつ病学会(任意)
9月	日本生物学的精神医学会(任意)
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	研修総括 研修プログラム評価報告書の作成

\* その他(任意) 地方研究会(随時)  
措置診察や鑑定業務への同席  
統合失調症家族教室(月1回)  
アルコールミーティング(月1回)  
認知症研修会

